

## 5. 具体的な取組

### (1) 活用力を高める授業づくり

- ・研究授業は上掲(1)①～③の視点で設計された授業を実施するものとし、それぞれ学習指導案上に項を立てて明記する。日常的実践は上掲(1)の割合で行う。
- ・課題は次の視点で設定するとともに、疑問詞によってねらう力を明確にする。
  - (S) 生活と関連する
  - (W) ワクワクする
  - (C) 知的好奇心を刺激する
  - (H) 必要感を持つ
- ・学び合いの目的とゴールを明確にし、課題解決のために必要な学び合いの設定を行う。
  - 互いの考えを比較する
  - 多様な情報を収集する
  - 思考を表現する
  - 多様な手段で説明する
  - 協働して創り出す

**SWITCH ON!**

### (2) 学力・学習を支える基盤づくり

- ・中能登スタンダードコンクールは年4回(年度当初と行事後)のコンクール週間を設定し、学習規律の維持向上を図る。なお結果は毎日掲示し、学級での取組の成果を可視化する。
- ・ナカノトーーークは年20回を設定し、全学級一斉に学級活動の冒頭10分間で実施する。なおその指導案は研究提案チームで用意する。
- ・基礎学タイム(給食準備中の帯タイム)を利用し、ドリル学習を行う。週末に検証テストを実施、結果を可視化し、学習集団としての質の向上を図る。
- ・毎時の振り返り欄を設けたNAKANOTEを自作し、これを毎日の課題とする。教科の課題については週課題システムを構築、曜日毎に提出する教科を定める。これらのスケジュールを可視化した掲示物によって、見通しを持ったよりよい家庭学習習慣の確立を図る。
- ・定期テスト3日前を「テストウィーク」とし、朝読書および基礎学タイムは全てテスト勉強とする。また、ウィーク中の部活動は基本的に禁止する。

\*なお5(1)(2)については、研究推進(D)チームによるチェックあるいは生徒を含めた衆目に置くことによって確実な実践となるようなシステムで運用するものとする。

### (3) 指導改善を進める体制づくり(「学力向上ロードマップ」参照)

#### 総括チーム ◎学校長 運営委員会

方針決定と目標設定  
実施状況のチェック③(\*)

#### 集計分析チーム ◎進路指導主事 進路指導部

学力調査採点・入力・分析スケジュール提案(分析シート作成)  
現状把握、原因分析、課題の明確化

#### 研究提案・研修支援チーム ◎研究主任 各チームリーダー

学力向上プラン提案・通信発行  
若手育成プログラム統括

#### 研究推進チーム ◎学力向上主任 生徒指導部・教育相談部・保健環境部・生徒会部

授業チーム：○生徒指導主事・生徒指導部員・教育相談部員  
基盤チーム：○保健主事・保健環境部員・生徒会部員  
学力向上プラン実施

取組へのアシストとチェック①(\*)

#### 検証チーム ◎主幹教諭 教務部・情報教育部

定期テストでの活用力育成問題分析による目標と結果の比較  
アンケートによる共通実践の達成度と、学びの実感についての実態把握  
学力向上プラン実施状況のチェック②(\*)

\*…チェック①は定期的な授業参観・②は学期ごとのアンケート・③は改善のための

## 指導

- ・校務分掌とチームを関連付け、全職員の学力向上への参画意識を高める。
- ・職員会議前にチーム会議を実施し、進捗状況を明確にする。
- ・共通理解・共通実践のための通信を随時発行する。
- ・研究提案(PA)チーム会議を週時程内に設定し、各チームの進捗状況を常に把握する。
- ・研究提案(PA)チームの学力向上プラン提案毎に周知徹底を図る校内研修会を実施する。
- ・研究推進(D)チームの中にモニタリング機能を設定し、確実な実践を図る。